

拝啓 5月もはや下旬、梅雨が間近い時期ですが、お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。近所の公園では、斜面に、ブタナ、シロツメクサ、ヒメジヨンなどが広く咲いていて大変きれいなのですが、公園管理のために、突然刈り取られて、ゴルフ場のようにきれいな斜面に一日で変わります。

今月は、小西先生の「ローマ人への手紙講解説教」からの引用の第12回目です。見出しは、引用した文章の中にある大切な言葉を探して、私がつけていますが、今回も、「貧しい聖徒を助け、旅人をもてなせ」、「喜ぶ者と共によるこび、泣く者と共に泣きなさい」、「信仰は聖霊の働き」など、大切な実践的な教えが述べられています。

我が家では、妻が入院、手術をするということが起きまして、毎日の生活時間が大分変わりました。私どもの夫婦は、それぞれが外のボランティア活動に打ち込んでおり、夫婦ともそのような生きがいを持って過ごせてありがたいと思っておりました。夫婦ともに健康で、生きがいを持って過ごせるというのは案外短い期間でしたが、これも世の常なのでしょう。

病院に通っている間に、近所の映画館で、「リンカーン」(アメリカのリンカーン大統領のこと)という映画を見て、大変感動致しました。昔、「ローマの休日」と「サウンド・オブ・ミュージック」に感動して、それぞれ3回ずつ見たことがあります。「リンカーン」もそれらに匹敵するか、越える映画という印象で、3回は見ようと思っています。リンカーンを演じる俳優は、ダニエル・デイ＝ルイスですが、この映画でアカデミー主演男優賞を取っています。私たちの持っていたリンカーン大統領のイメージにぴったりで、余韻が残ります。監督は有名なスピルバーグです。歴史的事実の理解が難しい所がありますが、後で図書館で子供むけのリンカーンの伝記を読んで、よく分かりました。

今、昨年の南原シンポジウムの本の編集をしています。その中で、私が引用した新渡戸稲造先生の言葉「(『一日一言』の10月21日)西暦1805年の今日、英将ネルソンが戦死する間に、『余は余の義務を尽くせり』と叫んだ。際限なきは勤めなり、一つ済むと思えばまた一つ。それを果たせばまた新たに起こる。かく、勤めは無限なれども、ありがたき事には、いくつもある勤めが同時には来ぬ。故に一寸ずつ尽くして行けば、たくさんありとも、天も人も、己も責めぬ」をかみしめ、一つずつ、やっけて行こうと思っています。

これから、梅雨の時期に向かい、暑さが増してまいります。どうぞ、お身体ご自愛のほど、祈り申し上げます。

敬具

平成25年5月26日

山口周三

エンカウンター of 読者各位